

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	2019年10月31日
【四半期会計期間】	第18期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社スターフライヤー
【英訳名】	Star Flyer Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 松石 禎己
【本店の所在の場所】	福岡県北九州市小倉南区空港北町6番 北九州空港スターフライヤー本社ビル
【電話番号】	093-555-4500（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員 柴田 隆
【最寄りの連絡場所】	福岡県北九州市小倉南区空港北町6番 北九州空港スターフライヤー本社ビル
【電話番号】	093-555-4500（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員 柴田 隆
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第17期 第2四半期 累計期間	第18期 第2四半期 累計期間	第17期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	19,509	20,245	39,937
経常利益 (百万円)	993	740	1,250
四半期(当期)純利益 (百万円)	481	687	513
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)	-	-	-
資本金 (百万円)	1,250	1,250	1,250
発行済株式総数 (千株)	2,865	2,865	2,865
純資産額 (百万円)	9,109	8,886	8,537
総資産額 (百万円)	28,651	27,947	28,087
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	168.11	239.87	179.03
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	10.00
自己資本比率 (%)	31.8	31.8	30.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	512	2,831	265
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,842	410	4,845
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,450	1,161	2,726
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	6,504	6,754	5,528

回次	第17期 第2四半期 会計期間	第18期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	227.45	257.41

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していないため、連結経営指標等の推移については記載しておりません。  
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。  
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営んでいる事業の内容に、重要な変更はありません。  
また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生はありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。なお、重要事象等は存在していません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社は航空運送事業を主な事業とする単一業種の事業活動を営んでいるため、セグメント別の記載は行っていません。

#### (1) 経営成績の状況

当社は、2015年度から2020年度までの中期経営戦略「“らしさ”の追求2020」の実現に取り組んでおります。

「“らしさ”の追求2020」では、“スターフライヤーらしさ”を追求し質にこだわることでお客様に選ばれる企業となることを目指し、当初の2年間（2015年4月～2017年3月）においては「成長への基盤づくり」を行い、その後の4年間（2017年4月～2021年3月）においては、「持続的成長」を図ってまいります。2019年5月8日には、経営環境の変化に対応すべく、一部見直しを行った2019年度ローリング版を公表しました。

当第2四半期累計期間における当社を取り巻く環境は、依然として厳しい競争環境が続きました。市場の動向については、原油価格は期初から下落傾向で推移し前年同期と比較すると低水準となりました。また、為替相場は期初から円高傾向で推移しているものの、前年同期と比較するとほぼ同水準となりました。

#### (就航路線の状況)

就航路線の状況につきまして、当第2四半期会計期間末における路線便数は、国内定期便1日当たり6路線31往復62便、国際定期便1日当たり2路線2往復4便であります。

(2019年9月30日現在)

路線	便数(1日当たり)	備考
国内定期路線		
北九州 - 羽田線	11往復22便	
関西 - 羽田線	5往復10便	
福岡 - 羽田線	8往復16便	
福岡 - 中部線	3往復6便	
山口宇部 - 羽田線	3往復6便	
北九州 - 那覇線	1往復2便	
国内定期路線 計	31往復62便	
国際定期路線		
北九州 - 台北(台湾桃園)線	1往復2便	2018年10月28日からの就航
中部 - 台北(台湾桃園)線	1往復2便	2018年10月28日からの就航
国際定期路線 計	2往復4便	
合計	33往復66便	

飛行時間につきましては、北九州 - 那覇線の通期運航や2018年10月28日からの国際定期便2路線就航などにより、当第2四半期累計期間の飛行時間は20,004時間（前年同期比9.9%増）となりました。

（就航率、定時出発率）

就航率、定時出発率につきましては、社内で継続して就航率・定時性向上プロジェクト（ON TIME FLYER活動）を推進しております。就航率・定時出発率ともに前年同期を上回る水準を達成しました。

項目	前第2四半期累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）	当第2四半期累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）	増減率
就航率（%）	98.0	98.9	+ 1.0pt
定時出発率（%）	92.7	93.6	+ 1.0pt

旅客状況につきましては、北九州 - 那覇線の通期運航を開始したものの、関東地方および九州北部地方へ相次いだ台風などの影響により、国内線の自社提供座席キロは1,005百万席・km（前年同期比0.5%減）へ減少しました。一方で、前事業年度からの国際定期便2路線就航により国際線の自社提供座席キロが新規に174百万席・km加わったことから、国内線および国際線合計の自社提供座席キロは1,180百万席・km（前年同期比16.8%増）となりました。

国内線は、北九州 - 羽田線、福岡 - 羽田線を中心に自社提供座席キロは落ち込んだものの、レベニューマネジメントのさらなる強化に取り組んだことにより集客の減少を最小限にとどめ、旅客数は78万8千人（前年同期比0.7%減）、座席利用率は75.4%（同0.2ポイント減）となりました。一方国際線は、国内線と比較すると低水準とはなったものの順調に集客を伸ばし、国内線および国際線合計の旅客数は86万2千人（前年同期比8.7%増）、座席利用率は74.3%（同1.3ポイント減）となりました。

上記により、国内線における生産量（総提供座席キロ）の減少に伴い航空運送事業収入は19,074百万円（前年同期比1.9%減）と微減したものの、国際線による航空運送事業収入（定期旅客収入のみ）1,079百万円がこれを補ったことにより、航空運送事業収入は20,153百万円（前年同期比3.7%増）となりました。また、附帯事業収入は91百万円（前年同期比38.2%増）となり、これらの結果として、当第2四半期累計期間の営業収入は20,245百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

一方、費用面につきましては、保有機材数の増加や生産量の増加に伴い機材費や変動費（燃油費など）が増加しました。他方、将来の航空機材の定期整備費用に備えるための定期整備引当金は米ドル建てで金額を見積もっていることから、期中の円高進行に伴い引当金の追加繰入額が減少しました。さらに、従業員数の増加に伴い人件費は増加したものの、前年同期に発生した国際定期路線展開のための初期費用（販売費など）は一服したことなどの結果として、事業費ならびに販売費及び一般管理費の合計額である営業費用は、19,500百万円（前年同期比5.1%増）となりました。

これらにより、当第2四半期累計期間の営業利益は745百万円（前年同期比22.7%減）、経常利益は740百万円（前年同期比25.5%減）となりましたが、法人税等合計が減少したことにより、四半期純利益は687百万円（前年同期比42.7%増）となりました。

## （2）財政状態の分析

当第2四半期会計期間末の資産合計は27,947百万円となり、前事業年度末に比べ140百万円減少しました。

流動資産合計は90百万円増加しましたが、これは主として、前事業年度にかかる法人税等の予定納税額が還付され現金及び預金が増加したことによるものです。また、固定資産合計は231百万円減少しましたが、これは主として資産の償却によるものです。

当第2四半期会計期間末の負債合計は19,060百万円となり、前事業年度末に比べ489百万円減少しました。

これは主として、繰り入れおよび目的使用の純額として定期整備引当金が403百万円増加した一方で、前事業年度末に計上していた借入金（流動負債および固定負債合計）が約定返済により751百万円、リース債務（流動負債および固定負債合計）が約定返済により647百万円減少したことによるものです。なお、当第2四半期会計期間末の有利子負債残高は7,465百万円となりました。

当第2四半期会計期間末の純資産合計は8,886百万円となり、前事業年度末に比べ348百万円増加しました。

これは、四半期純利益の計上により利益剰余金が687百万円増加した一方で、剰余金の配当により利益剰余金が28百万円減少したことに加え、デリバティブ取引に係る繰延ヘッジ損益が309百万円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物は6,754百万円となり、前事業年度末に比べ1,226百万円の増加（前年同期は837百万円の減少）となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,831百万円のキャッシュ・インフロー（前年同期は512百万円のキャッシュ・アウトフロー）となりました。

これは主として、前払費用が781百万円増加したことにより資金減少となったものの、税引前四半期純利益が740百万円（前年同期比25.5%減）となったほか、前事業年度における航空機の購入等に伴い固定資産が増加したことにより減価償却費が904百万円（前年同期比15.3%増）となったことに加え、未収消費税等の減少により1,014百万円の資金増加となったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、410百万円のキャッシュ・アウトフロー（前年同期比89.3%減）となりました。

これは主として、建設仮勘定の計上など有形固定資産の取得による支出が341百万円（前年同期比90.9%減）、ソフトウェア等の無形固定資産の取得による支出が94百万円（前年同期比61.4%減）あったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,161百万円のキャッシュ・アウトフロー（前年同期は3,450百万円のキャッシュ・インフロー）となりました。

これは主として、短期および長期借入金の返済による支出751百万円およびリース債務の返済による支出381百万円（前年同期比1.3%増）があったことによるものです。

(4) 生産、受注及び販売の実績

営業実績

前第2四半期累計期間および当第2四半期累計期間の営業実績の状況は、次のとおりであります。

なお、当社は航空運送事業を主な事業とする単一業種の事業活動を営んでおりますので、提供するサービス別に記載をしております。

科目		前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)		当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	
		金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
航空運送 事業収入	定期旅客運送収入	19,309	99.0	20,080	99.2
	貨物運送収入	95	0.5	72	0.4
	不定期旅客運送収入	37	0.2	-	-
	小計	19,442	99.7	20,153	99.5
附帯事業収入		66	0.3	91	0.5
合計		19,509	100.0	20,245	100.0

(注) 1 定期旅客運送収入および貨物運送収入には、全日本空輸株式会社への座席販売および貨物輸送分を含めております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は以下のとおりです。なお、当該取引の内容は、コードシェアによる座席販売および貨物輸送分であります。

相手先	前第2四半期累計期間		当第2四半期累計期間	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
全日本空輸株式会社	6,249	32.0	6,082	30.0

輸送実績

前第2四半期累計期間および当第2四半期累計期間の輸送実績の状況は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	増減率
有償旅客数(千人)	794	862	+8.7%
有償旅客キロ(百万人・km)	764	876	+14.7%
提供座席キロ(百万席・km)	1,010	1,180	+16.8%
座席利用率(%)	75.6	74.3	1.3pt

(注) 1 上記輸送実績には、全日本空輸株式会社への座席販売分を含めておりません。

2 有償旅客キロは、路線区間の有償旅客数に区間距離を乗じたものであります。

3 提供座席キロは、路線区間の提供座席数に区間距離を乗じたものであります。

運航実績

前第2四半期累計期間および当第2四半期累計期間の運航実績は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
運航回数(回)	11,311	11,950
飛行距離(km)	10,380,255	11,432,352
飛行時間(時間)	18,205	20,004

(5) 主要な設備

当第2四半期累計期間において、主要な設備の著しい変動および主要な設備の前事業年度末における計画の著しい変動はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年10月31日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	2,865,640	2,865,640	東京証券取引所 (市場第二部)	1単元の株式数は100株であります。完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない、当社の標準となる株式であります。
計	2,865,640	2,865,640	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	2,865,640	-	1,250	-	750

(5)【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
ANAホールディングス株式会社	東京都港区東新橋1丁目5番2号	514,700	17.96
TOTO株式会社	福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1号	140,000	4.89
高橋 慧	東京都新宿区	109,200	3.81
ゴルフライフ株式会社	東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目21番4号幡ヶ谷 ファーストビルディング8階	103,900	3.63
株式会社安川電機	福岡県北九州市八幡西区黒崎城石2番1号	90,660	3.16
北九州エアターミナル株式会社	福岡県北九州市小倉北区空港北町6番	80,000	2.79
九州電力株式会社	福岡県福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号	70,000	2.44
日産自動車株式会社	神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地	60,000	2.09
福山通運株式会社	広島県福山市東深津町4丁目20番1号	55,014	1.92
羽田タートルサービス株式会社	東京都大田区羽田5丁目3番1号スカイプラ ザオフィス12階	42,680	1.49
計	-	1,266,154	44.19

(6) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,863,000	28,630	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 2,340	-	-
発行済株式総数	2,865,640	-	-
総株主の議決権	-	28,630	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式16株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社スターフライヤー	福岡県北九州市小倉南区空港北町6番北九州空港スターフライヤー本社ビル	300	-	300	0.01
計	-	300	-	300	0.01

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は、次のとおりであります。

資産基準	0.2%
売上高基準	0.0%
利益基準	0.2%
利益剰余金基準	0.4%

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,982	7,196
営業未収入金	3 2,225	3 1,807
商品	11	8
貯蔵品	483	506
その他	3 3,928	3 3,202
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	12,631	12,722
固定資産		
有形固定資産		
航空機材(純額)	3 6,095	3 5,881
リース資産(純額)	4 6,325	4 5,571
その他	952	1,429
有形固定資産合計	13,372	12,881
無形固定資産	696	639
投資その他の資産	1,386	1,704
固定資産合計	15,455	15,224
資産合計	28,087	27,947
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	2,334	2,107
1年内返済予定の長期借入金	2, 3 770	2, 3 737
リース債務	4 988	4 682
未払金	1,965	1,842
未払法人税等	64	378
ポイント引当金	38	36
その他	1,118	1,329
流動負債合計	7,280	7,114
固定負債		
長期借入金	2, 3 2,839	2, 3 2,471
リース債務	4 3,916	4 3,574
定期整備引当金	5,308	5,711
その他	205	189
固定負債合計	12,270	11,946
負債合計	19,550	19,060
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,250	1,250
資本剰余金	1,013	1,013
利益剰余金	6,165	6,824
自己株式	0	1
株主資本合計	8,428	9,087
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	108	200
評価・換算差額等合計	108	200
純資産合計	8,537	8,886
負債純資産合計	28,087	27,947

( 2 ) 【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業収入	19,509	20,245
事業費	16,249	17,348
営業総利益	3,259	2,896
販売費及び一般管理費	1 2,295	1 2,151
営業利益	964	745
営業外収益		
受取利息及び配当金	4	5
為替差益	141	-
業務受託料	0	0
補助金収入	-	66
貯蔵品売却収入	-	32
その他	7	31
営業外収益合計	154	137
営業外費用		
支払利息	81	73
固定資産除却損	5	2
為替差損	-	62
その他	38	3
営業外費用合計	124	141
経常利益	993	740
税引前四半期純利益	993	740
法人税、住民税及び事業税	374	302
法人税等調整額	137	248
法人税等合計	511	53
四半期純利益	481	687

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	993	740
減価償却費	784	904
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
ポイント引当金の増減額(は減少)	3	1
定期整備引当金の増減額(は減少)	592	403
受取利息及び受取配当金	4	5
支払利息	81	73
為替差損益(は益)	143	70
補助金収入	-	66
固定資産除却損	-	2
売上債権の増減額(は増加)	256	418
たな卸資産の増減額(は増加)	28	20
前渡金の増減額(は増加)	98	1
前払費用の増減額(は増加)	22	781
未収入金の増減額(は増加)	918	339
未収消費税等の増減額(は増加)	442	1,014
仕入債務の増減額(は減少)	77	227
未払金の増減額(は減少)	411	314
未払消費税等の増減額(は減少)	578	358
前受金の増減額(は減少)	190	5
その他	28	89
小計	186	2,827
利息及び配当金の受取額	4	5
利息の支払額	81	72
補助金の受取額	-	64
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	621	6
営業活動によるキャッシュ・フロー	512	2,831
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	109	-
定期預金の払戻による収入	220	-
有形固定資産の取得による支出	3,748	341
無形固定資産の取得による支出	245	94
差入保証金の差入による支出	1	39
差入保証金の返還による収入	35	70
その他	5	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,842	410
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	350	350
長期借入れによる収入	3,800	-
長期借入金の返済による支出	265	401
リース債務の返済による支出	376	381
配当金の支払額	57	28
その他	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,450	1,161
現金及び現金同等物に係る換算差額	65	33
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	837	1,226
現金及び現金同等物の期首残高	7,342	5,528
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 6,504	1 6,754

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

1 当座貸越契約及びコミットメントライン契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。

また、資金調達の機動性及び安定性の確保を図るため、取引金融機関9社とコミットメントライン契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

		前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
当座借越極度額	(百万円)	1,000	1,000
貸出コミットメントの総額	(百万円)	2,000	2,000
借入実行残高	(百万円)	-	-
差引額	(百万円)	3,000	3,000

上記のコミットメントライン契約には、次の財務制限条項が付されており、下記条項のいずれかに抵触した場合には、借入先からの請求により、一括返済することになっております。

前事業年度(2019年3月31日)

各事業年度末における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、6,087百万円以上に維持すること。

各事業年度末における単体の損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。

各事業年度末における単体の貸借対照表に記載される有利子負債の合計金額を、13,000百万円以上としないこと。

当第2四半期会計期間(2019年9月30日)

各事業年度末における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、6,087百万円以上に維持すること。

各事業年度末における単体の損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。

各事業年度末における単体の貸借対照表に記載される有利子負債の合計金額を、13,000百万円以上としないこと。

2 シンジケートローン契約

当社は、航空機材の購入資金の一部に充当するため、航空機材を担保として、取引銀行2行とシンジケートローン契約を締結しております。

上記のシンジケートローン契約には、次の財務制限条項が付されており、下記条項のいずれかに抵触した場合には、借入先からの請求により、一括返済することになっております。

前事業年度(2019年3月31日)

各事業年度末における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、2017年3月期末日における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額以上に維持すること。

各事業年度末における単体の損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。

当第2四半期会計期間(2019年9月30日)

各事業年度末における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、2017年3月期末日における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額以上に維持すること。

各事業年度末における単体の損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
航空機材 (百万円)	5,189	5,062

また、営業未収入金および未収入金合計のうち600百万円は、当座借越契約の担保として譲渡担保が設定されております。

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
1年以内返済予定の長期借入金 (百万円)	281	250
長期借入金 (百万円)	1,562	1,437
計 (百万円)	1,843	1,687

4 ファイナンス・リース契約

当社は、航空機材(JA08MC)調達のため、3社とファイナンス・リース契約を締結しております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
リース債務 (百万円)	1,300	1,163

上記のファイナンス・リース契約には、次の財務制限条項が付されており、下記条項のいずれかに抵触した場合には、取引リース会社からの請求により、一括支払することになっております。

前事業年度(2019年3月31日)

各事業年度末における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、1,059百万円以上に維持すること。

各事業年度末における単体の損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。

当第2四半期会計期間(2019年9月30日)

各事業年度末における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、1,059百万円以上に維持すること。

各事業年度末における単体の損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。

(四半期損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
給料手当等(百万円)	270	271
販売手数料(百万円)	652	617
賃借料(百万円)	162	190
減価償却費(百万円)	100	144
貸倒引当金繰入額(百万円)	0	0
ポイント引当金繰入額(百万円)	0	5

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金(百万円)	6,741	7,196
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 (百万円)	237	441
現金及び現金同等物(百万円)	6,504	6,754

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月22日 第16期定時株主総会	普通株式	57	20.00	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動はありません。

当第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 第17期定時株主総会	普通株式	28	10.00	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

当社は、航空運送事業を主な事業とする単一業種の事業活動を営んでおります。また、経営資源の配分の決定や業績評価は、当社全体で行っております。したがって、事業セグメントは単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

当社は、航空運送事業を主な事業とする単一業種の事業活動を営んでおります。また、経営資源の配分の決定や業績評価は、当社全体で行っております。したがって、事業セグメントは単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	168円11銭	239円87銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	481	687
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	481	687
普通株式の期中平均株式数(株)	2,865,416	2,865,358

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年10月31日

株式会社スターフライヤー

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 安藤 見 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 尚宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スターフライヤーの2019年4月1日から2020年3月31日までの第18期事業年度の第2四半期会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スターフライヤーの2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。